
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題「公刊資料に基づく中国・河西回廊地域モンゴル諸語の研究」
平成 27 年度第 3 回研究会 報告

日時：平成 28 年 3 月 11 日（金曜日）午後 1 時より午後 6 時 30 分

場所：AA 研 304 号室

報告者名（所属）・報告タイトル

1. 山越康裕（AA 研所員） 「モンゴル語族における名詞の格体系と数標示」
2. 梅谷博之（AA 研共同研究員，AA 研特任研究員） 「河西回廊地域モンゴル諸語の人称代詞」
3. 児倉徳和（AA 研所員） 「『蒙古語族語言方言研究叢書』データベース化の進捗報告」
4. データベースの構築に関する議論

今回の研究会では、梅谷・山越の両氏より、『蒙古語族語言方言研究叢書』のうち特に文法書の記述の検討を目的とした報告が行われた。また、児倉より同叢書のテキスト・語彙集のデータベース化の進捗の報告が行われた。

1. 山越康裕（AA 研所員） 「モンゴル語族における名詞の格体系と数標示」

『蒙古語族語言方言研究叢書』の文法記述から名詞（類）の格と数に関する記述をまとめ、問題点をまとめた。

- ・「属対格」の問題：属格と対格の区別が一部の言語で見られない（同一の格＝属対格で表される）現象と、格体系の歴史的発展（属格と対格が分化したか、融合したか等）の問題
- ・奪格・具格・連合格の形式の機能・形式両面での対応関係
- ・複数標識の問題：各言語における*-nAr 系、*-l 系、*-d 系、*-s 系、-gula 系の諸形式の有無

本発表に対し、共同研究員の佐藤暢治氏（研究会は欠席）から事前にコメントが文書の

形で寄せられ、そのコメントも踏まえつつ、現時点での問題点を以下のようにまとめた。

- ・格のに関する用語（名称）の不統一が見られるが、これが各言語における機能的差異を踏まえてのものか、単なる不統一によるものかを整理する必要がある。
- ・「複数」を表す要素が複数存在することについてモンゴル諸語全体で機能を比較しつつ整理する必要がある。
- ・土族語民和方言と保安語に見られる近接性を、モンゴル諸語の系統分析にどのように位置付けるかが問題である。

2. 梅谷博之（AA 研共同研究員，AA 研特任研究員） 「河西回廊地域モンゴル諸語の人称代詞」

『蒙古語族語言方言研究叢書』の文法記述から代名詞の格形式に関する記述をまとめ、問題点をまとめた。

- ・諸格形式におけるの複数の語幹の分布
- ・一人称複数代名詞の「包括」と「除外」の区別
- ・引用文話者を表す形式

本発表に対しても共同研究員の佐藤暢治氏（研究会は欠席）から事前にコメントが文書の形で寄せられ、そのコメントも踏まえつつ、現時点での問題点を以下のようにまとめた。

- ・テキストのジャンルの差異を踏まえた代名詞の諸形式の頻度・分布を整理する必要がある。
- ・特に1人称・2人称については『蒙古語族語言方言研究叢書』に採録されているテキストのジャンルの偏りから、絶対的に頻度が少ない。適当なジャンルの談話資料を新たに採録し、補完する必要がある。

3. 児倉徳和（AA 研所員） 「『蒙古語族語言方言研究叢書』データベース化の進捗報告」

4. データベースの構築に関する議論

検索可能なサーバーにアップロードした『蒙古語族語言方言研究叢書』のテキストデータの検索方法について発表した上で、今後の作業工程について相談した。